

令和元年度 丹波篠山黒豆情報

第 2 号 令和元年8月22日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・丹波農業改良普及センター

*丹波篠山市内 6 カ所に調査定点を設置しています。

【生育】 (令和元年 8 月 21 日丹波篠山市定点調査結果より)

	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)
令和元年	68.3	18.2
平年(過去 10 カ年平均)	71.6	17.7
平年比	95%	103%
平成 30 年(参考)	61.5	17.7

- ・主茎長は平年（過去 10 ヶ年平均）比 95% でやや短く、主茎節数は平年比 103% で平年並みです。
- ・7 月中旬以降、低温・寡日照傾向であったことから、ほ場条件が悪く十分な中耕・培土が行えなかったほ場もあり、主茎長は地域間差が見られます。

【病虫害】 (令和元年 8 月 21 日丹波篠山市定点調査結果より)

	立枯性病害 株率 (%)	カメムシ類 虫数/株	ノメイガ類 被害株率 (%)	サヤムシガ 被害株率 (%)	アブラムシ類 頭/小葉	ハダニ類 頭/小葉
令和元年	1.67	0.01	1.67	10.83	0.00	0.85
平年(過去 10 カ年平均)	2.64	0.10	6.84	19.21	0.06	0.33
平年比	63%	10%	24%	56%	0%	258%

- ・立枯性病害（茎疫病、白絹病など）の発生は、平年より少ない傾向です。
- ・カメムシ類、ノメイガ類、サヤムシガ、アブラムシ類などの害虫の発生は、平年より少ない傾向です。
- ・梅雨明け後、高温・乾燥が続いたことから、ハダニ類の発生が一部のほ場で多発しており、平年に比べ多い傾向です。
- ・ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は 8 月以降、増加傾向で推移しており、8 月 15 日現在では、平年よりも多い傾向です。

【今後の対策】

1 排水対策

- ①立枯性病害の発生は少ない傾向ですが、今後、ゲリラ的な降雨による停滞水が要因となり、茎疫病等の発生が増加することも予想されます。排水口を整えたり、排水溝と排水口を確実につなぐなど、ほ場の排水対策の徹底に努めましょう。
- ②茎疫病が発生した場合は、発病株を早急に抜き取り、抜き取った株は、ほ場外に持ち出して処分するとともに、薬剤防除を行いましょう。

上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

2 害虫対策

- ①ハダニ類が一部のほ場で多発していることから、被害葉が見られた場合は、薬剤防除を実施しましょう。
- ②カメムシ類、マメシンクイガ、フタスジヒメハムシなどは、着莢期、莢肥大期に莢を吸汁・食害して被害が大きくなるため、薬剤防除を徹底しましょう。
- ③ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は増加傾向となっています。食害を受けて白く見える葉（白変葉）は早めに除去し、薬剤防除を実施しましょう。

上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

3 干害対策

- ①降雨が少なく、ほ場が乾燥した状態が続く場合は、谷が白く乾く前にかん水を行いましょう。特に、粒肥大期（9月中旬）にかけて土壌水分が不足すると、落花・落莢を引き起こし、着莢数や莢重の減少につながります。
- ②かん水は、日中の暑い時間は避け夕方または早朝に実施し、水は溜めたままにしないようにしまししょう。

【参考】

